

**製品名: FOXP1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab11113**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	75kDa

**抗原情報**

遺伝子名	FOXP1
別名	FOXP1; HSPC215; Forkhead box protein P1
遺伝子 ID	27086.0
SwissProt ID	Q9H334
免疫原	抗血清はヒト FOXP1 の C 末端領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 628-677

**背景**

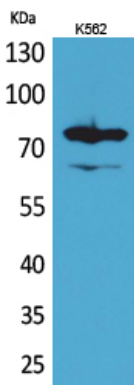
この遺伝子は、フォークヘッドボックス (FOX) 転写因子ファミリーのサブファミリー P に属します。フォークヘッドボックス転写

因子は、発達期および成人期の両方において、組織および細胞型特異的な遺伝子転写の調節において重要な役割を果たします。フォークヘッドボックス P1 タンパク質は、DNA 結合ドメインとタンパク質間結合ドメインの両方を含みます。この遺伝子は、いくつかの腫瘍型で欠損しており、腫瘍抑制遺伝子を含むことが報告されている染色体領域（3p14.1）にマッピングされているため、腫瘍抑制因子として機能する可能性があります。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、代替製品：追加のアイソフォームが存在するようです、疾患：急性リンパ性白血病で FOXP1 に関連する染色体異常が発見されました。PAX5 との転座 t(9;3)(p13;p14.1)。,ドメイン：ロイシンジッパーは二量体形成と転写抑制に必要である。機能：肺上皮の分化と分化において重要な役割を果たす転写抑制因子。CTBP1 と相乗的に転写を抑制するが、CTBP1 は必須ではない。B 細胞分化に必須の転写調節因子。類似性：C2H2 型ジンクフィンガーを 1 つ含む。類似性：フォークヘッド DNA 結合ドメインを 1 つ含む。サブユニット：FOXP2 および FOXP4 とホモ二量体およびヘテロ二量体を形成する。DNA 結合には二量体形成が必要である。CTBP1 と相互作用する。,

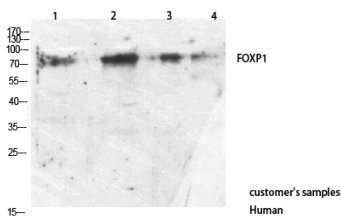
## 研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

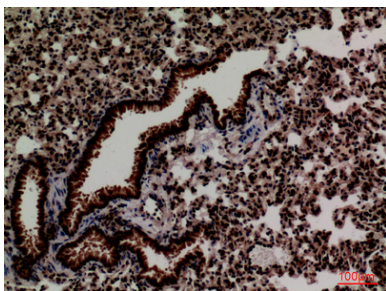
## 画像データ



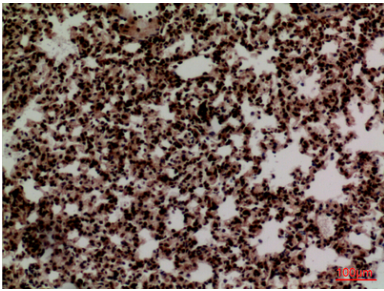
FOXP1 ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞のウェスタンブロット解析。抗体は 1:1000 に希釈した。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



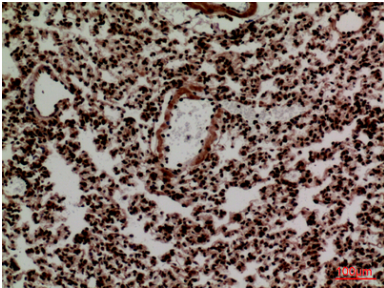
FOXP1 抗体ポリクローナル抗体を使用した顧客のウェスタンブロット分析。



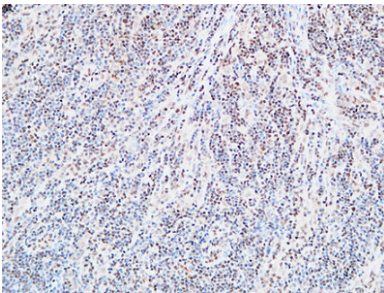
パラフィン包埋マウス肺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



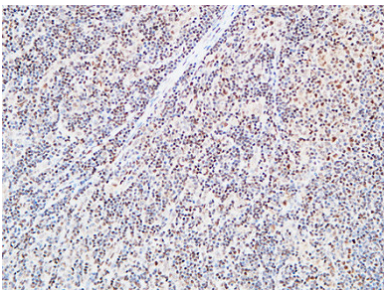
パラフィン包埋マウス肺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



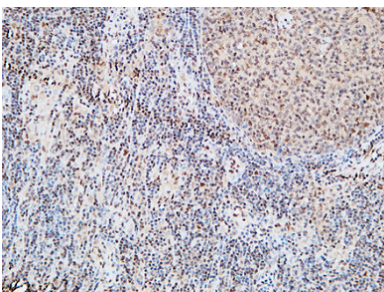
パラフィン包埋マウス肺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒトリンパ腫の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒトリンパ腫の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒトリンパ腫の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。